

区民ワークショップ 各グループの提案の概要（1日目）

【第1グループ】孤立を生まない地域づくり

- ・交流のきっかけがない
- ・交流の仕方が分からない
- ・交流の場が少ない

- 気軽な交流の場の創出（健康マージャン、日帰りバス旅行 外国人の交流行事）
- 情報発信による生活や暮らしの場（銭湯やコインランドリー等）におけるコミュニケーションの仕掛けづくり
- ボランティア活動の場を創出

- ・情報が届かない
- ・周知不足

- 情報の信頼性を高める、情報解決型のホームページ作成、
- 紙媒体の活用
- アニメの活用等によるYouTubeの内容の見直し
- SNSに頼りすぎない情報発信
- 広報媒体の見直し（ポスティング、手紙による通知）
- 広報媒体を置く場所の見直し

【第2グループ】子育てしやすいまちづくり

- ・子育てに関するまとまった情報がどこにあるか分からない（区HPが分かりづらい）

- 子育て情報ツールとして、母子モ（母子手帳アプリ）・区公式LINEを活用して区の子育てサービス情報を必要な人に届くように周知

- 区HPの情報を整理（グルーピング）し、閲覧・検索に係る利便性を向上

- ・必要な人に子育てサービスの情報が届いていない

- 区HPの周知機能の向上
〔年齢に応じた検索、プッシュ通知、AIやチャットGPTの活用〕

- これから親になる人やこれまで関心が低かった人に対する区の子育て支援の取組みのPRや対外発信

【第3グループ】地域防災力の向上

- ・防災に関する広報が不十分
- ・防災に無関心な人が依然として多い

- 区公式LINE登録者を増やす試み（転入者へチラシ配付・登録者へ防災グッズ配付他）
- 情報発信の強化（SNSを活用した災害時に区ができることの周知・防災コンテンツの増加）
- やさしい日本語の活用

- ・地域における交流が少ない（主に単身世帯・若年層）
- ・多様な主体との連携

- 住民との連携（特殊技能を有する住民の登録）
- NPO法人との連携（協定の締結）
- 事業者との連携（防災性の高いまちづくり、協定締結他）
- 大学との連携（防災訓練・災害ボランティア）
- 他自治体・姉妹都市との連携（避難者の受入等）

- ・被災規模の想定
- ・区内は住宅が密集し、道路が狭い

- 将来的な復興に向けた事前準備
- 空き家対策（土地の買取り）
- 多様性等に対応できる施設の準備（①ジェンダー ②病気 ③ペット等）

【第4グループ】地域における文化振興

- ・発信力の強化（発信していても気付かれていない）

- SNSを活用した情報発信
- 企業とコラボレーションして区の良い所をPR、商品化（豊島区のお土産）、思い出になる・好きになるきっかけづくり

- ・伝統行事に一部のしか参加していない
- ・大学生や親子世帯を巻き込む
- ・外国人

- 伝統文化の継承を強化、機会づくり、やわらかな接点づくり、子どもの頃からふれる機会を（社会科見学等）
- 学園祭と連携
- 多様な人が参加しやすい仕組みづくり

- ・自慢できる豊島区

- 自慢できるモノ・コトを掘り起こす
〔祭り、伝統文化、サブカルチャー（アニメ・コスプレ）〕
- 都電や桜、居心地の良さ、適度な賑やかさ
- 騒音・人混み・治安など住民への配慮